

緑友 だより

NO. 43

54/3

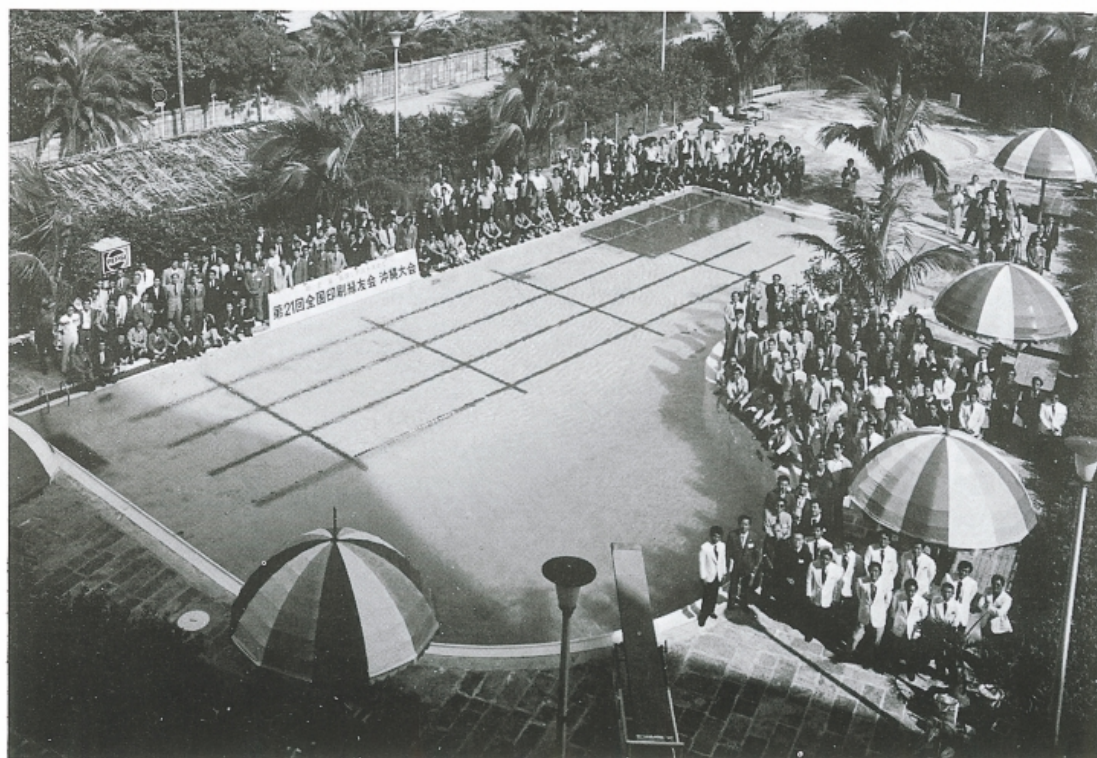
全国印刷緑友会機関誌

東京都杉並区和田 1-29-11 (社) 日本印刷技術協会内

◇発行人=作道亮雄◇編集人=小林 直

若き力、沖縄に結集！
第21回大会、成功裡に終わる。

—— 本土を離れて300余名が集う ——



常任幹事・グループ長合同幹事会報告

I 開催日時 昭和53年8月5日(土)

午後1時半～5時

II 場 所 新東京ホテル 5階会議室

III 出席者 18グループ26名

IV 議事及び協議経過

1. 司会 長倉常任幹事

2. 会長挨拶 作道会長挨拶要旨次の通り。

暑い中、種々ご予定の多い中、多数のご出席心から御礼申し上げます。最初に宮城沖地震による仙台刷親会各位の被災に対し心よりお見舞い申し上げます。緑友会として何のお役にも立てず心苦しいが、後程地震に対しての体験教訓を話して頂ければ。

沖縄大会も二カ月前に迫り、全国各グループ、若潮会の勇気と熱意ある主管に应运えてのご協力をお願いする。本日は沖縄大会に備えての詳細打合せ、53年度事業計画の具体化、その他ご案内諸議案審議のためご参集願った。皆様の建設的積極のご意見を得、緑友会のより良き歩みの会議として頂きたい。同時に各グループ指導者相互の交流を願う。私は常々緑友会の組織や活動は、全国各グループに何等かの寄与を果して行くべきを願っており、そのために一番大切なことは、各グループ指導者同志の親しき交流基盤であると思っている。会議の後懇親の場を通じ、より交流を広め、そして深めて頂いて本日の会合が緑友会にとり、また参加者の皆様にとり充実したものになる事を心より願いご挨拶といたします。

3. 自己紹介

4. 議長選任 司会者指名により飯田幹事を議長に選任する。

5. 議 事

(1) 沖縄大会について

一) 大会パンフレットが大変説明不足不備で申し訳ない。改正書を作り8月3日全国に送付したが、宣しくご了承を願いたいとの大城氏説明があり、審議検討の結果次の様に決定された。

A) 登録費25,000円は10月6日、7日2泊の宿泊費と8日の朝食費迄を含むものである。7日の夕食8日の昼食は各自のご負担であるが、その紹介やアドバイスについては大会当日に申しあげる。

B) 宿泊ホテルは10月6日の夜沖縄パシフィックホテル、10月7日の夜ムーンビーチホテル

C) 前回ご案内の割引航空運賃には計算誤りがあり、改正書の運賃に改正(東京45,300円、大阪36,900円、福岡28,500円)。利用便については改正書に記載の便のみとし、その他の便を利用される場合は各自手配を願う。航空券は整理券として発行し各グループに郵送しますが、整理券は各空港にて払戻しすることは出来ない。各グループの中で一部前日のゴルフ参加で5日の便を申し込まれた場合も割引適用といたします。

D) ゴルフ大会 前回9,000円でご案内したが、プレイフィ懇親会費一切を含め13,000円とする。5日の宿泊は申込んで頂ければ手配する(5,000円位)

二) 大会の流れ全般及び役割分担について

A) 従来のパターンでやる。

B) 当日迄に物故会員の有無を確認し、あればグループ紹介の後に入れる。

C) 綱領先唱 プロセス青樹会会長田中肇君

D) ゲストグループのご挨拶は懇親会の乾杯の前に載く。JC印刷部会長、東京青年印刷協議会議長二名

E) 乾杯音頭 筒井前会長

三) 分科会運営について

A) 世話役連絡記録係として沖縄若潮会より一名配置する。

B) 記録はテープと速記の両用を検討し、レポート原稿は分科会テーブルリーダーが責任をもって作成する。

(2) 大会参加者数の概算確認

仙台 23、新潟 7、茨城 13、同友会 35、千代田 12、文京 10、写真若葉会 8、青樹会 5、神奈川 10、長野 10、名古屋 11、ぎふ 15、大阪 20、神戸 10、下関 10、北九州 20、熊本 5、沖縄 29、出席グループ申告計 253 名、欠席 11 グループ推測 38 名、予想参加数 291 名

(3) 大阪セミナーについて

- A) 開催場所 京都での開催を望む
B) 開催日時 54 年 2 月中旬以後土曜日の昼から始めて日曜の昼に終了する。
C) 希望講師 ワコール塚本社長、田辺経営所長、宗教家、京都の学者
D) 費用と人数 20,000 円位で 80 名位

(4) 55 年度の総会、大会、セミナー開催地について

各候補グループが次の様に選出され、それぞれ各グループは後日検討の上確答すると了承。() グループは確定グループ

54 年度

総会 (ぎふ翠陽クラブ)
大会 (北九州 YP クラブ)
セミナー 神戸若人会

55 年度

総会 長野青年印刷人緑友会
大会 (仙台刷親会)
セミナー 名古屋而立会

56 年度

総会 愛媛印刷人青年会
大会 新潟県印刷新世会

(5) 写真入名簿の費用分担について

製作総費用 950,000 円の費用捻出方について次の通りとする。

- 一、各グループに会員数の冊数を送付し送料込みで 1 冊 1,000 円で購入を願う。
二、関連企業に対し (1 冊 1,500 円で 20 冊) 3 万円の協賛購入を願う。目標 10 社で 30 万円。
三、上記費用捻出方で製作費 950,000 円を調達し、超えた分については緑友会計に組入れるものとする。

(6) 全国の未加入グループの現状について

現在緑友会として何らかの呼び掛と接触を持っているグループは次の四グループである。近い将来入会も検討されているグループもあり皆さんの協力をお願いする。

1. 札幌印刷クラブ 2. 千葉印刷懇和会
3. 山梨県印刷若人会 4. 京都青年印刷人会

(7) 仙台刷親会地震災害に対するお見舞について

急であり会長一存で 5 万円の見舞金を支出がなされた。各グループに 2 千円の分担をお願いする。仙台印刷親会佐藤会長より御礼の辞と、地震災害報告並に復旧経過報告がなされた。

(8) 沖縄大会以後の緑友会日程について

1. 11 月下旬 常任幹事会開催。議題大会を了えて、次期役員について大阪セミナー、ぎふ総会準備
2. 2 月中旬 グループ長常任合同会議、大阪セミナー第 2 日目朝に開催する。
議題、新役員の内定、ぎふ総会打合せ
3. 4 月 第 22 回ぎふ総会

(9) 緑友 20 年史のその後

原稿依頼各位からの返送遅延、不適原稿、編さん側のミス等の理由で遅れている。完成は本年末の予定であるが、何とか沖縄大会に間に合う様編さん者に話す。預かっている各グループの写真等資料は、各グループの記念誌編さんにも支障あるので至急返送するものとする。

以上で議事審議を終り引き続き各グループの近況報告に移る。

(近況報告及出席者名簿略) 以上
議事録作成 満谷健作 (大阪)



常 任 幹 事 会 報 告

◇日時 昭和 53 年 11 月 17 日（金曜）

午後 5 時 15 分～6 時 45 分

◇場所 「若竹」

大阪市南区東満水町 60

◇出席者（敬称略 50 音順）

相野耕三（神戸）、飯田範夫（長野）、井上雅巨（会計）、大城新正（沖縄）、作道亮雄（会長）
佐藤好孝（仙台）、中村守利（同友会）、池田達彦（名古屋）、原維宏（福岡）、牧野貞夫（神奈川）、満谷健作（大阪オブザーバー）、若山晃一（ぎふ）、渡辺守将（北九州）

I 開会 作道会長挨拶

過日の沖縄大会では地元若潮会の皆さんに大変お世話になり、また常任幹事の皆さんには分科会の運営に尽力頂き、みのりあるしかも楽しい大会を成功させることができたことを厚く感謝したい。私自身二つの大会を皆さんのご協力を得て無事つとめさせて頂き、ここにお礼の意味もこめて大阪で幹事会を開かせて頂いた。次期役員の選出はじめ大切な議題があるが、短時間で効率的な審議をお願いしたい。

II 議長選任 会長指名により中村守利君を議長に選任

III 議事 牧野、渡辺、若山の三君未着のため、予定の議事順序を変更の上、審議に入る。

1. 第 11 回セミナー開催について

主管の大阪青年印刷人クラブ満谷副会長が開催要領を説明

(イ) 日程：昭和 54 年 2 月 23 日（金）～24 日（土）

(ロ) 場所：京都市東山区円山「楠荘」

(ハ) 会費：2 万円

(ニ) 講師：会田雄次氏（京大教授）

堺屋太一氏（作家）

立花大亀氏（大徳寺住職）

(ホ) その他 詳細は別紙「ご案内」参照

なお、京都を選んだのは幹事会での要望があったため、また京都の休日を生かしてもらうため、日程に金曜、土曜を選んだと

満谷君補足説明

〈質疑応答〉

佐藤 二日目の朝グループ長会議が予定されているのはなぜか。

会長 総会前だからその詰めをしておきたい。別に常任幹事会を開くのなら必要ないが、ここでやってしまう方が効率的ではないか。

〈審議〉

プログラム原案中、第一日目「懇親会」とあるのはパーティ形式という誤解が起るから、これを「夕食」と訂正の上、原案承認。なお、案内状は 12 月上旬発送の予定であることを確認。

2. 沖縄大会を振り返って

実行委員長だった大城君が要旨次の通り報告した。

全国の仲間のご協力に厚く御礼申上げたい。大会後反省会も開いた。参加者の声を記録したインタビューのテープも聴いた。細かい点で不備はあるけれども有意義だった。正直いって考えながら実行に移せなかったこともある。無我無中、精一杯だった。今後の大会のあり方としても、やはり主管グループが一つの分科会を担当した方がいいと思う。本当は我々も地域の問題、「沖縄問題」をとり上げたかった。しかし大会全体の運営の上に、とても分科会の担当までできないと強力な反対があり、実現しなかった。主管グループがテーマをもって分科会の討論をもとにして、それをずっと継続して掘下げて行けるような方向が望ましいものではないか。

若潮会としては、大会に結果した熱を続行させようと、その後百名を集めたセミナーを開き、12 月にはチャリティゴルフを計画して券を百二十枚売った。また大会で記念樹をしたが、あと四、五本木を追加して、三十年後か何十年後に再び沖縄で大会が開かれるとき、そこを「印刷の広場」として皆さんを迎えようという計画だ。全国から手紙も頂いた。それもとり入れて

記念誌を作成中で12月中旬までには届くようにと取組んでいる。

〈意見交換〉

渡辺 分科会の時間がもっと欲しかった。福岡担当の第4分科会など、非常にうまく準備され、運営され、問題が掘下げられていただけに、なおさら時間のなさを感じた。担当したグループの研究成果がそのまま出てくる。これは相当勉強せんといかんなあと考えさせられた。

会長 各分科会をまわったが、それぞれに特色のあるやり方で非常にユニークな分科会だった。

大城 時間の点は十分わかるし申し訳ないと思うが、我々としてはせっかく沖縄へ来てもらったのだから、できるだけ早く沖縄らしいところを味わってほしい、早く懇親を—という気持ちになることもご理解願いたい。

(笑)

渡辺 来年の北九州は沖縄と違って全く何もないところだから、十分時間をとってみっちり勉強してもらうつもりだ。覚悟しておいてほしい。(笑)

3. 次期役員について

議長、作道会長に提案を求め、会長次の通り提案する。

会長 次期会長に、グループの歴史も永く緑友会を受ける気持もひととき強い長野の飯田範夫君を推挙したい。

全員拍手で提案を承認、次期会長に飯田君を内定した。

飯田 わからないことばかりだが、行詰った時は先人の跡をたどりたい。私個人の力では何もできない。皆さんのご協力がなければつとまらない。協力をお願いしたいときはどうか快くお引受けをお願いしたい。微力だが精一杯努力する。

4. 役員の定数について

作道会長が以下の通り提案及び問題提起した。

会長 個人指名、グループ指名の常任幹事に関しては飯田次期会長に一任する。意見があれば出してほしい。役員の定数について

は、加入グループが増えたのにもなって定数を増やした方がいいかどうか検討してほしい。それから私の場合、会計を神戸にお願いしたが、神戸の方で私と親しい井上さんがいいだろうと配慮して下さって井上さんを推された。従って神戸はグループ代表とともに二人出て頂いているわけだが、こういう形はいいと思う。今後もこの形が必要なときは認めて行っているのではない。次に私の場合、副会長を置かなったが今後はどうか。

〈意見〉

飯田 副会長制については私も作道さんに賛成だ。副会長制はとらないつもりだ。責任は対等でご協力頂きたい。会計担当の特例だが、できればそう願いたい。

渡辺 会計という仕事には得手不得手もあることだし、運営面で適任者に委託する形だから(常任幹事以外の人がなっても)問題はない。会則にも抵触しない。

議長 その問題は運営上の問題として考えて行くことにする。次に定数についてはどうか。現在は13名だが。

会長 増やしてはどうかという意見が耳に入ったので提起した。そうしてほしいというつもりはない。

飯田 とくに増やす必要性は感じない。

議長 では役員定数は現状のままで行くことにしたい。

会長 幹事会、グループ長会議に書記的な役目の人を会長が自分のグループから指名して入れることも、会則の変更なしにできるのではないかと。

議長 会長の所属グループから書記の出席を認めることにしたい。

渡辺 新役員については会長一任ということなので、次期会長から意見を聞かせてほしい。

会長 飯田次期会長が構想を練る上での材料としてみんなの意見を出す方がいい。

議長 ではニワトリよりもタマゴの方を先にしたい。

渡辺 いいにくい次期は個人指名から外し

てほしい。白石氏が社長業に専念したいと申し出て YP クラブでは了解している。

大城 いうまでもなく指名から外れるとは思いますが、大会が済んだところは外してもらっていい。沖縄は十分認識できた。もっとよそから参加してもらった方がいい。

井上 逆の意味で大会、総会などを受持っているグループから出してもらった方がいい。とすると常任幹事の定数を増やしてもいいのではないかとということになる。

会長 定数が多いから欠席してもいいということになっても困る。意見吸収はグループ長会議を重視していけばいい。

議長 ではそれらの意見を勘案して、常任幹事の指名を飯田次期会長にお願いすることにした。

5. 行事補助金について

議長、作道会長に提案説明を求め、会長次のように説明する。

会長 これも耳にした意見だが、大会は金を集めやすいがセミナーは金集めがむずかしい。セミナーの補助金をもっと増やせという声があった。現行のようにセミナーを主管制度にしていると、うちはセミナーを受持ったからということで、大会、総会を受けるところがだんだんなくなってくるおそれもある。そこで、セミナーについては常任幹事が主管し、開催地は場所の選定だけすればいいということにしてはどうか。

井上 会計上からは現在 50 万円ぐらい余っている。今期は名簿の利益を含めて 85 万円ぐらいは出るのではないか。

会長 セミナーの補助金は限度を決めずに、一応予算上は 20 万円なら 20 万円を計上しておくということにしてはどうか。まず常任幹事会がセミナーを主管するという考え方について一。

渡辺 実際の運営面で、やはり開催地に委嘱する形をとらなければならないのではないか。

若山 セミナーの主管は原則としては常任幹事会だ。運営は現地におまかせする。しかし会計責任は常任幹事会にあるという点を

明確にすればいい。

会長 この問題は次期会長の下で引続き考えてほしい。会計上は一応補助金を 20 万円に増額するという事で諒承願いたい。

議長 そういう方向で継続審議したい。

6. 第 22 回岐阜総会開催要項について

議長、若山君に説明を求め、若山君次のように説明。

若山 今日皆さんの意見を聞いてスケジュールを決めたい。また役員改選総会でもあるので、人員の見込みも聞かせてほしい。記念講演をやるかどうか、鵜飼いを見てもらうとすれば 5 月中旬以降になるが、4 月にするか 5 月にするかという時期の問題、それからやはり土曜日がいいのではないかとと思うが、これらについて意見を聞きたい。ご要望の通りにする。

議長 まず時期の点から検討してほしい。

〈意見〉

牧野 やはり例年どおり 4 月中旬にしてはどうか。(賛意多数)

議長 では 4 月 14 日(土)を第一希望にした。宿泊はコミにするか別にするか。

会長 午後からのスケジュールになるからコミにする方がいいと思う。

大城 できれば午後 3 時頃の開会にしてもらえばありがたい。

若山 3 時はちょっと遅い。沖縄はじめ遠隔地からの便をよく調べて時間を決めたい。

議長 4 月 14 日午後 1 時開会、宿泊付きのスケジュールということで一応予定頂きたい。講演は従来もやっているが一。

佐藤 遠隔地の人たちの遅刻を考えると、先に講演をしてあとで総会をするという方法もある。

若山 講演が先というのはどうかと思う。みんなが参加できる時間をよく検討してみる。

議長 では記念講演もお願いすることにした。規模は 1 グループ当り 2～3 名が従来の例で、ただし議決権は各グループ 1 名に限っている。とくに人員制限はしないということかどうか。

若山 受入れはできる。

佐藤 役員改選を全体に知らせる意味もあるから、人員には幅をもたせておけばいい。

議長 では1グループ2～3名を目安にし、とくに人員制限はしないことにする。京都セミナーのとき、最終的に打合せしたい。

7. 行事開催予定地の再確認について

会長 予定としては54年度は総会＝岐阜、大会＝北九州、セミナー＝神戸。55年度は総会＝長野、大会＝仙台、セミナー＝名古屋。56年度は総会＝愛媛、大会＝新潟となっているが、このうち55年度総会が長野になっているのを東京に変更してもらってはどうか。

渡辺 次期大会は北九州だが、昨日役員会を

開いて概略を決めた。意向としては、54年9月22日(土)、23日(日)にしたい。北九州は集会施設が少なく、1カ所しか適当な場所がないので、この日程に限定される。部屋の関係で分科会は四つにしたい。参加費は2万円を超えないようにする。観光するところが少ないのでミーティングに十分時間をかけたい。記念講演は地元の講師を予定し土地の特色を出したい。

会長 55年度の総会については、できれば在京6グループのうちから担当グループを決めてもらえればと希望している。

議長 今後の懸案事項にしたい。以上で審議を終了する。

議事録作成＝秋山(大阪)

(p.3よりつづく)

◇日時 昭和54年2月24日(土)
午前8時30分～9時30分

◇場所 楠荘(京都市東山区円山)

◇出席者(略)

1. 退会申し出グループの件

長野上田印刷緑友会

佐賀印刷若楠会

上記グループの退会申し出について作道会長が報告。上田印刷緑友会は書面で、佐賀印刷若楠会は口頭で意志表示があった。佐賀の場合、退会に不賛成の会員もあり、また西日本青年印刷人のつどいには引続き参加したいとの意向を示している。

会長、一同に語り、両グループを退会扱いにすることを了承。

2. 緑友会セミナーの今後の運営について 標記について作道会長が以下の通り提議

去年11月の常任幹事会(大阪)でも問題を出したが、限られたグループ数の中で、大会、総会の上にセミナーが加わり主管グループに当たる回数が増えてくる。セミナーはあくまで常任幹事会を実行委員会とし、主管グループは会場の世話だけすればいいという形にしてはどうか。

またもう一つ、開催地をどこか一カ所に決めてしまう方法もある。従来の形の主管制度は今

回の大阪を最後にしてはどうか。

細部の検討は次年度執行部に引継ぐとして、セミナーを常任幹事会が直接運営することとし、従来の主管制度を改めることについて会議は賛意を表明。

3. 今後の大会、総会について

標記について会長次の通り報告

大会は今秋が北九州、来年は仙台にお願いしている。総会は今年が岐阜、そして来年は長野だったが、飯田氏が会長に選ばれる関係上、東京プロセス青樹会にお願いしたところ「前向きに検討しよう」との回答を得ている。

それ以後の大会、総会についても主管グループの積極的な申し出をお願いしたい。常任幹事グループ以外に今日は新潟、製版若葉会、広島、下関などがご出席だが、ご協力願いたい。

このあと岐阜の鴻村、飯尾両君より4月総会準備とプログラムについて報告があった。

つづいて北九州・白石氏が54年度大会日程を9月22～23日に決めたいと報告。茨城・長倉氏より同じ日程でJC業種別特別委員会が水戸で開かれる旨の発言があったが、一応北九州の日程設定を了承。

以上で議事を終了したが、席上、新たに作成した大会旗及び総会旗が披露された。

以上

第21回沖縄大会

碧い空・海・協調と 創造を求めて

—25グループ、300余名が参加—

昭和53年10月6日、第21回沖縄大会が「碧い空・海・協調と創造を求めて」のテーマのもとでパシフィックホテルで沖縄県青年印刷若潮会の主管で開催された。平良沖縄県知事（代理）、平良那覇市長はじめ沖縄県印刷工業組合の西平理事長を来賓に迎え、全国から25グループとゲストおよびオブザーバーのそれぞれ2グループ300余名の青年印刷人が出席、第1日目（6日）の式典は午後1時から与那覇正俊君（沖縄県青年印刷若潮会）の開会宣言で開幕、国歌斉唱のあと田中肇君（東京プロセス製版青樹会）の先唱で緑友会綱領を唱和、来賓紹介のあと物故者に一分間の黙禱を捧げ、大城新正大会実行委員長（沖縄県青年印刷若潮会）の歓迎挨拶のあと、作道亮雄会長の人間のふれあい、結びつきの大切さを再認識しようという心強い挨拶があった。来賓祝辞では平良県知事が入院中のため県労働商工部長が代読、また那覇市長（助役代読）の挨拶があり、沖縄県印刷工業組合の西平理事長は沖縄県の実状を分科会のテーマとしてとりあげ、みなさんからの指導と助言をいただけたら幸いに思いますと謙虚なごあいさつの後、全印工連矢板会長をはじめとする祝電の披露が行われ、安里正男君（沖縄県青年印刷若潮会）の閉会のことばで式典を終えた。

記念講演には沖縄大学の新屋敷幸繁氏による「琉球の歴史と文化」のテーマで一時間半にわたり琉球の独特の文化など興味深い話が紹介された。講演会のあと分科会は、五つのグループに分れて行われ、第一グループのテーマは後継者の悩みと後継者の執るべき経営姿勢とその理念について、千代田印刷人新世会グループの担

当で、第二グループは小規模経営に於ける企業内容について担当長野青年印刷人緑友会、第三グループは印刷業におけるサービスを深る。一不況対策として一担当仙台刷親会、第四グループは不況過当競争激化に当り、時代の転換期にいかに対処していくべきか、担当福岡印刷若葉会、第五グループは地方都市における印刷業の諸問題、新潟県印刷新世会の担当で一時間半にわたり、各県や業界に於ける問題点を提起しながら熱心な討議が展開された。大会終了後午後5時半から懇親会が開かれ、大城大会実行委員長、作道会長のあいさつにつづいて、東京青年印刷人協議会の八十島敏行氏の祝詞のあと、初代幹事長市村道徳氏の音頭で乾杯が行われ、懇親パーティーも盛り上がり、沖縄流空手、琉舞等南国ムード一杯の中、北九州Y・Pクラブが炭坑節を披露、北九州で来年また合いましょう！とのPRには万来の拍手がわいた。つづいて若山晃一君（ぎふ印刷翠陽クラブ）の万才三唱、大川英郎君（神奈川正和会）の手じめのあと会員全員で「おててつないで」を大合唱してフィナーレを飾った。大会2日目は、午前8時30分から前日の分科会で討議されたまとめが各テーブルリーダーから発表のあと、次期大会開催地の北九州Y・Pクラブ代表のあいさつと緑友会旗伝達式が行われ、来年全員が北九州で再会を約し、2日間の日程で行われた沖縄大会は盛会裡に終了した。閉会后全員がプールを囲んで記念撮影が行われた。午前10時に観光バス6台に分乗して南国沖縄観光に出発した。



第11回セミナー

3講師招き京都で開催

昭和54年2月23、24日・京都・「楠荘」

全国印刷緑友会第11回セミナーは、2月23、24日の両日、折から小雨の京都・円山「楠荘」に、20グループ110名が参加して開かれた。主管は大阪青年印刷人クラブ、舞台の京都は、各グループの要望が強かったため選ばれたもの。講師陣は、会田雄次（京都大学教授）、堺屋太一（作家）、立花大亀（京都・大徳寺顧問）の三氏。いずれも強い個性のにじむ論旨と話法、二日間の研修は滞りなく終わった。

セミナーは、23日午後2時開会、司会は大阪の中村恵昭君、国歌斉唱のあと、やはり大阪の山田哲君のリードで緑友会綱領を唱和、続いて仙台から沖縄まで参加十九グループ、それにオブザーバー出席の大半若梅会、と次々に紹介を受け拍手を浴びた。

そのあと、挨拶にたった作道亮雄会長は、「単に“待つ”だけの姿勢ではなく、自ら次の局面を想定し、積極的に対応する条件を創り、徒らに他人の言動に左右されない、自立した姿勢を確立すべき時機ではないか」と訴えた。

開会式のあと午後2時30分開講。今次セミナーの主題は、いわば戦後生活の決算書。我々が現在立っている、さまざまな意味での“位置”を再発見しようというねらい。

というわけで、第一講は「戦後民主主義を問い直す」をテーマに会田雄次氏。得意の比較文明論を手がかりに、戦後日本人の意識講造の深部に光をあてた。ついで第二講は通産省出身の異色作家、堺屋太一氏。古代史から未来学まで博識で鳴る気鋭の論客だけに、「エネルギー問題と日本経済の未来」の大テーマをかざしつつ、聴く者の身に迫る感じで鋭く問題を提起した。

午後6時過ぎから夕食会。大阪の満

谷健作実行委員長が冒頭に歓迎のあいさつ、同じく綾田孟郎君が司会をつとめ、先輩の大川英郎元幹事長の音頭で威勢よく乾杯、京料理を味わいつつ歓談をかわした。

翌朝は9時半にセミナー再開。第三講の「日本人の生死観」を主題に、立花大亀老師の説話を聴いた。政財界にも多くの“弟子”をもつ老師、そうした人々の生と死にまつわる挿話をまじえながら、また歴史上の人物の死にのぞむ姿を引きながら、淡々としてこの古今の難問題を説きあかした。これで三講終了。午前11時、飯田範夫常任幹事の閉会挨拶でセミナーの幕を閉じた。

（秋山 光）

☆参加グループ

第11回セミナーの参加グループと人員は次のとおり。（順不同）

○仙台刷親会（3）○茨城緑友会（1）○神奈川正和会（5）○長野青年印刷人緑友会（4）○千代田印刷人新世会（7）○広島県青年印刷人新世会（1）○名古屋而立会（5）○印刷同友会（8）○下関青年印刷人緑友会（3）○福岡印刷若葉会（3）○北九州Y・Pクラブ（4）○東京写真製版若葉会（4）○大分印刷若梅会（4）○新潟県印刷新世会（4）○東京プロセス製版青樹会（2）○ぎふ印刷翠陽クラブ（5）○文京緑友会（1）○神戸印刷若人会（5）○沖縄県青年印刷若潮会（4）○大阪青年印刷人クラブ（30）。



膝を交えて語ろう！

文京緑友会・20周年記念
昭和53年7月22日・箱根小涌園

文京緑友会が創立20周年を記念して、7月22日、午後1時15分から箱根小涌園で記念大会を催し、東印工組顧問長宗泰造氏、同副理事長久永舎春氏、文京支部長大熊暁三氏、東京青年印刷人協議会八十島敏行議長、全国緑友会作道亮雄会長、印刷同友会中村守利、小林直新旧幹事長、千代田新世会中村勝亮、青木宏至新旧幹事長、製版若葉会米屋功、福山正孝代表、神奈川正和会牧野貞夫代表、プロセス青樹会逸見節夫、田中肇代表、東京青年印刷人協議会斉藤聖司、近藤清一代表各氏らを来賓に迎え、会員42名の多数が参加して盛会であった。当初は、椿山荘でと計画したものの、OB会員から、「じっくり膝を交えて語り合うように」との忠告もあり、都心を離れての大会となった。

式典は本田太郎君の司会で進められ、国歌斉唱につづいて来賓各氏を紹介、開会の挨拶は椎橋義夫副幹事長が行ない、鈴木嘉男幹事長が挨拶に立った。昭和33年に長宗顧問さんの肝入りで発足して以来、歴代幹事長、役員の努力と、全国緑友の仲間の援助で、目出たく20周年を迎えたことに、会を代表して、感謝の挨拶を行ない、「初代大熊幹事長が、ちょうどこの期に文京



文京緑友会創立20周年記念大会



支部長として、活躍されており、今日の式典に新たな意義を感じている。われわれは経営陣として努力の積み重ねもないのに、ひたすら友情とか環境に甘えてきたことを反省し、今日の記念大会を新しいスタートとして、積極的に問題に取り組み、解決する経験を積んで、険しい道を切り開いて行こうと思う。最近、緑友の人から本を送って貰ったが、その人の生き様が如実に伝わり、身ぶるいさえ感じ全く感銘した。今後とも緑友の輪によって血となり、肉となる経験の場を、一段と成長させ、ともに繁榮したい」と結んだ。

来賓の祝辞では長宗顧問、大熊支部長、作道全国緑友会会長が代表して激励の挨拶をおくった。ひきつづき新妻康宏君から、「20年の歩み」について細かな報告があって、歴代功労者の表彰に移り、初代大熊暁三、二代和田豊、三代利根川包吉、四代徳永進、五代松本喜美雄、六代新妻康宏、七代椎橋靖夫、八代鈴木嘉男の各先輩ならびに功労者として斉藤敏治、大橋道雄、柏原義治、高山享三、甲田悦久、樋口雅幸各先輩に対し、プロフィール紹介があって、銅版の表彰額を拍手のうちに贈り、米原輝生副幹事長の挨拶で閉会した。

記念講演は、扇谷正造先生の「減速経済を切り抜ける三つの方策」を1時間半にわたり熱心に聞いた。第一に問題意識をもって事に当れ、第二にケチの経営に徹して自己資本の充実をはかれ、第三に若い人やる気をおこさせよ—について実例を挙げての解説であった。

(鈴木嘉男)

心と心のふれ合い

ぎふ印刷翠陽クラブ・20周年記念

昭和53年11月3日

昭和53年は、ぎふ印刷翠陽クラブが誕生してから満20周年ということで、これを記念して大会を開催することが、以前から決定されていましたので、これが会長就任と同時に、私に与えられた大きな課題でしたから、大会が無事済んでホッとした現在の心境とはまるで違う、不安な気持ちでいっぱいでした。

私は、この記念大会は、翠陽クラブ員全員が同じ気持ちで参加し、みんなで実施する全員参加型のものにしなければ、開催する意味がないし、成功しないと判断し、みんなの目標となる統一テーマ（趣旨）が必要と考えました。会長就任の時の基本方針の第一に、「仲間意識の高揚、心と心のふれ合い、我々は良いライバルであると同時に、良き仲間である」を掲げていましたし、大会準備から実施までの8カ月間に、会員相互に活発な議論がなされ、その場が各会員成長の道場となり、やがて連帯した意識が芽生え、同業人としての哀歓を共にし合える関係が醸成されることを期待しましたので、「ぎふ印刷翠陽クラブ20年の歴史をふまえて、明日への飛躍と仲間意識の高揚を目指し、この20周年を祝うものである」を大会趣旨に決定しました。

大会のポイントを、①式典、②記念講演、③懇親会の3本柱とし、記念事業として、記念誌



の発刊、スライドの作成を計画しました。いろいろ会合を重ねていくうちに、クラブの歌、旗を作ってはどうかということにもなり、会員自らの手で、それも見事に実現されました。今にしておもえば、式典、懇親会などは月日の経過と共に忘れられていくが、スライド、記念誌、歌、旗と後世に残せるものが、20周年大会の成果として手許に残ったことが、何んとしてもすばらしいと思います。

13回を数える実行委員会、2回の大会リハーサル、各委員会別で開く数多くの委員会等を経て、いよいよ、11月3日を万全な体制で迎えることになりました。幸い天候にも恵まれ、岐阜市長、四橋岐印工組理事長をはじめとする来賓の方々、全国から集まった緑友の仲間、全会員の社長、クラブOBの諸氏、それに大会を財源的な面からバックアップして下さった協賛業者の方々、総勢120余名に及ぶ大会になりました。

皆さんの力で、この記念すべき20周年の大会が、立派に開催できましたことに、心から満足しております。皆さん、本当に有難うございました。制服に身を包んだ会員、事を立派になしおえた自信に満ちた顔は、一生忘れられせん。

今後は、20年の間築かれてきた、歴史と実績の上にしっかり足をのせ、関連業を含めた我々仲間が、一層団結を強固なものとして30周年へ向けて進むことが、本記念大会を支えて下さった方への返礼ともなり、また本クラブの発展、各会員会社発展につながることを確信しながら筆をおきます。
(鴻村 満)



未知へのチャレンジ

下関青年印刷人緑友会・15周年
昭和53年9月2日・シーモール下関

さる昭和53年9月2日(土)、シーモールホールにおいて、山口県印刷工業組合下関支部による印刷週間記念行事と並行して、私たち下関青年印刷人緑友会創立15周年記念式典を挙行了した。さて、我々はこの15年を記念して、一つの節を作るため、思い出に残り、また意義ある行事をと考え、53年度の事業計画に組み入れ、実行委員長を選出し、四つの小委員会(記念誌作成、式典、講演、懇親会)を編成し、準備を進めてきた。おりしも9月は、印刷週間と同時期になるため、印刷組合との話し合いにより、合同による記念式典を開催することになった。当日は、全国より作道会長をはじめ緑友同志の皆さん、また、市長ならびに各ご来賓さらには関連業界の方々、地元事業主の多くの出席者を得て、盛大に記念式が開催された。記念式は、まず、長阿弥実行委員長の開会の辞、つづいて国歌斉唱、綱領唱和、物故会員の霊に黙禱、そして来



賓紹介のあと、会長は、「昭和39年に創立以来、会員の同志的立場を理解しあい、親睦を深めあい、西日本大会、全国大会を機に、一步一步成長してきた。緑友会とは、情熱であり、行動力、未知へのチャレンジャーである。さらに20周年にむけて前進しよう」と挨拶した。そして歴代会長の代表挨拶を、初代会長の原氏より受け、また来賓の井川下関市長、林商工会議所会頭、さらには作道全国緑友会会長より、あたたかいはげましの祝辞を頂いた。そして、歴代の会長に感謝状の贈呈を行ない、歴代会長謝辞を泉二代会長よりいただき、記念式を終了した。ひきつづき記念撮影にうつり、その後、下関女子短大清成教授より「物の見方、考え方」の演題で記念講演があった。また、夜は懇親パーティにうつり、なごやかなうちに、盛会に終了した。後日、式典の様子がテレビ山口より「夕やけニュース」で放映された。また、山口新聞に記事も掲載された。このようにして、盛会に式典が終了したことは、ひとえに、私達を力強くご指導いただきました諸先輩、また緑友会諸氏のご支援があればこそ、とお礼申し上げます。

(中村嘉和)



あとがき

本会の昭和53年度事業は、さる2月の第11回京都セミナーをもって終了し、きたる4月のぎふ総会で、バトンはつぎの新役員に引き継がれる。過ぎた一年を振り返って見ると、初めて本土を離れて開催された沖縄大会は、地元ホストグループの“熱情”

と“努力”によって大成功をおさめ、しかも参加者全員に深い感動と感銘を與えてくれた。また、まさに緑友ならではのホトばしる“若い力”のエネルギーをかいま見る思いもあった。労苦を惜しまず精一杯頑張ったホスト若潮会々員諸兄に敬意を表し、あらためて最大の拍手をおくりたい。(T. K)